

自ら学び豊かな心で たくましく生きる生徒

しただの郷学園
下田中学校便り第9号
令和2年12月16日発行



文責 校長 小林貴英

生徒会役員選挙

Good School から Better School へ

“良い学校”

“より良い学校”



立会演説会

来年度の生徒会リーダーが選出されました。来年度のさらに良い下田中学校を目指して、現在活動を開始しました。今年度の生徒会は、コロナ禍であっても工夫した活動を、リーダーを中心に推進してくれました。加えて、全校生徒203名がそれぞれの立場で自分の役割を果たしてきた結果、レベルアップした下田中学校が存在しています。

誰もが“より良い学校”になることを望んでいます。しかし、その具体的な姿をイメージできる人はきっと多くはいません。全校生徒がそれを語る事ができるならば、下田中学校は確実に Better School になっていくと思っています。皆で目指しましょう。

言葉と思いやり

いじめ見逃しゼロ集会で言葉の大切さについて考え、言葉に色や形があるとすればどんな世界になるのかを想像しました。相手の気持ちを考え、自分の発する言葉を選ぶことの大切さを実感する時間でした。

さて、感染症の話です。対策をとっていても感染してしまうことがあるのは誰もが知っています。感染した人は治療を受ける辛さがあります。周囲からの誹謗中傷に悩む辛さを与えてはなりません。感染者のうわさ話はしない。言葉にしないことも思いやりです。



“言葉”について意見交換

新年の抱負に向けて

昔々私が中学生の頃、3学期の最初の学活で担任の先生がこう言いました。
「新年です。今年の抱負を書きましょう。」

何分か時間が与えられ、しばらく考えましたがなかなか浮かんできませんでした。結局「勉強と部活を頑張る」と書きましたが、まったく具体的ではなく、行動につながりそうにない抱負(?) になってしまいました。

最近、あのころに抱負を書けなかった理由が分かったような気がします。きっとそれは、私が毎日をぼーっと生きていたからです。特に目標を持っていなかった私は、何を頑張ればいいのかを分かっていませんでした。また、自分が夢中になれるものもなく、やりがい・生きがいというものが生活の中にありませんでした。「今日も普通に一日が終わった。明日もたぶん同じだろう。」こんな感じの日々だったと思います。

新年に限らず、年間の節目において、気持ちを新たにして行動を起こそうとすることは大切なことだと思います。しかし、それよりもずっと大切なのは、日々の生活を充実させる目標ややりがい・生きがいをもつことです。節目の目標はその延長でしかありません。では、半月後に迫った決心の日に向けて、今できることはあるでしょうか。

目標や夢がある人は、よく次のように言います。

「〇〇がきっかけで△△に興味を持ち始めました。そして今、この仕事をしています。」

この“きっかけ”が大切であり、行動のスタート地点になります。その“きっかけ”を得るために、私は日頃4つのことを心掛けています。①外に出掛けること ②いろいろな人と関わること ③本を読むこと ④新しいことに挑戦すること です。私はこれらの実践により、かなりの頻度で心に響く“きっかけ”に出会えます。自分のやりたいことが見つけられます。視野が広がり、頑張るべきことや目指す方向が見えてきます。やりたいこともやらなければならないことも、目標があるから意欲をもってやれます。

今から始めても新年の抱負には間に合わないかもしれませんが、それならば、4月の目標に向けた準備とすればいいです。繰り返しますが、節目の目標は日々の目標の延長です。目標ややりがい・生きがいを持ち、毎日楽しく充実させていきたいと思いませんか。

今日も普通に一日が終わった。
明日もたぶん同じだろう。



目標に向けて少しだけ前進した気がする。
明日はどんなふうにやってみようかな。

